

領域6 合同インフォーマルミーティング 議事録

2023/03/24(金) 18:00-19:00 オンライン開催

記録者：長登康

参加者：北野、枝川、延兼、廣戸、梶原、長登、他（約30名）

0. 全体説明（延兼）

Zoomの使用上の注意と意思表示の仕方に関する説明

1. 領域代表副代表について（北野）

現代表の北野先生から説明があり、次期正副代表の枝川先生と白濱先生からご挨拶。

- 現領域代表（2022年4月～2023年3月）北野 晴久（超伝導・密度波，青学大理工）
- 現領域副代表（2022年4月～2023年3月）枝川 圭一（準結晶，東大生研）
- 次期領域代表（2023年4月～2024年3月）枝川 圭一（準結晶，東大生研）
- 次期領域副代表（2023年4月～2024年3月）白濱 圭也（超低温，慶応大理工学部）

2. 領域運営委員について（延兼）

- 現領域運営委員（2022年4月～2023年3月）
廣戸 孝信（準結晶，物材機構），延兼 啓純（超伝導・密度波，北大理）
- 現領域運営委員（2022年10月～2023年9月）
梶原 行夫（液体金属，広大院先進理工），長登 康（超低温，広大院先進理工）
- 次期領域運営委員（2023年4月～2024年3月）
橋爪 洋一郎（準結晶，東京理科大），
（今回の承認事項）
友利 ひかり（超伝導・密度波，筑波大数理物質）（=> 辞退）
出村 郷志（超伝導・密度波，日大理工）
異論なく承認された。
- 次々期領域運営委員候補（2023年10月～2024年9月）
（今回の承認事項）
坂口 佳史（液体金属，CROSS），小林 未知数（超低温，高知工大）
異論なく承認された。

3. 米沢富美子記念賞（北野）

第4回（2023年）受賞者（領域6）の紹介：

竹森那由多 阪大 QIQB

講演題目: 特異電子構造を持つ系における強相関多体効果の理論的研究

4. 日本物理学会 若手奨励賞 (延兼)

第 16 回 (2023 年) 受賞者の紹介:

・ 巻内 崇彦 (東大工)

吸着分子薄膜の弾性異常と量子相転移に関する研究

・ 廣戸 孝信 物材機構

準結晶関連合金における強磁性磁気秩序と非共面型スピン構造の発見

若手奨励賞について北野先生から補足説明:

次回の若手奨励賞も積極的な応募・推薦を。5月頃にアナウンスがくるのではないかとと思われるので、今回残念ながら落ちた方もぜひ再チャレンジしてほしい。

5. 日本物理学会 学生優秀発表賞 (延兼)

秋季大会 (2022 年) 受賞者の紹介:

・ 準結晶 小笠原 俊輔 東理大先進工

・ 超低温 乾 聡介 阪市大理

・ 超伝導・密度波 前垣内 舜 東工大理

・ 超伝導・密度波 三栖 悠太郎 埼玉大理工

6. 学会の現地・オンライン開催に関する意見調査 (延兼、北野)

昨年秋季の現地開催では、現地で行われた口頭発表において、

・ オンライン聴講者に対して配信される映像や音声が必ずしも明瞭ではなかった

・ オンライン聴講者からの質問に気付かないケースが散見されました

などの問題があげられていた。大会担当理事からの説明によると、現在の参加登録料ではこれが精一杯でありクオリティを上げるのであれば参加費の大幅増額は避けられない。

これをふまえ、

A) 参加費の大幅増額を認めてオンライン参加者への聴講環境改善を図るか、

B) 聴講環境が現状維持とし参加費を据え置くか、

について、大会理事会から意見調査の依頼が来ている旨の説明がなされた。

北野先生から補足説明：

領域委員会の場で大会担当理事の寺崎先生から上記の話があげられた。他分野の学会（応物や化学など）との比較検討もされており、物理学会の参加費はかなり安いとのこと。そしてハイブリッド的な環境を整えるのであれば参加費をかなり上げざるをえないとのこと。

A) か B) か、まだ領域としての意見をまとめる段階ではないと思われるが、皆さんがどのような考えを持っておられるかお聞きしたいとのこと。

以下、挙げられた意見：

- ✓ 村川智（東大低セ）：前回のハイブリッドの際にオンライン参加したが（クオリティの問題で）オンライン参加者と現地参加者の参加費が同じであったことに不満があった。（オンライン参加は安くしてほしかった。）参加費は据え置きがよい。
- ✓ 前田京剛（東大総合文化）：かねがね物理学会の参加費は安いと感じている。参加費を上げてもいいから、学会のクオリティを上げてほしい。（例えば、応用物理学会のように、参加者には全員予稿集をつけるなど。）他の学会と比べて遜色ないクオリティにしてほしい。
- ✓ 乾雅祝（広大）：コロナが収束したら、一回はオンラインで行うわけだし、ハイブリッドを止めればいいのでは。（一回はオンライン、一回は対面）

関連することとして、もう一つの意見調査である「**学会の現地・オンライン開催に関する意見調査**」について北野先生から説明：

- ・オンライン大会でのポスターセッションの在り方について（今回はブレイクアウトルームを利用したが、今後、他の方法も含めて利用するかどうか）
- ・オンラインで実施しているプログラム編集会議での、編集ツールと編集方法について

このポスターセッションに関して北野先生、延兼先生からの意見：

- ✓ 学生がポスター発表したのだが、ポスター会場に人がほとんど来ていなかった。
- ✓ ブレイクアウトだと、指導する立場の人がちょっと離れたところから学生の様子を眺める、といったことが難しい。
- ✓ ブレイクアウトルームだと、外の議論も見えないし、ポスター発表らしくない。個室なので対面のときのような活気がない。他領域も同様。

この後に会場から出された意見：

- ✓ 加藤勝（大阪公立）：一つだけメリットをあげると、オンラインでは動画をみせやすかった。一方、別のオンラインの際に、学生がほとんど見てもらえなくて研究する気を削がれたとのこと。（別の対面での会議のときには話を聞いてもらえて良かったとの評。）
- ✓ 村川（東大低セ）：ブレイクアウトだと途中から入りにくい。zoomだと一部しか拡大できないので（横から）見たいところをみることができない。

もう一つのプログラム編集会議の件については領域による話かも？とのこと。（延兼、北野）

本件に関して意見ある場合は、今月いっぱいについては北野先生へ。（IM後に寄せられた意見について、議事の後ろに追記）

以下別件として、北野先生から2月頃にMLで流された若手会員等の自主的な活動に関する実態調査について、何かご存じないかとの話が提示された。

これに対し、廣戸先生：

- ✓ この調査で問われているような活動に該当するがわからないが、準結晶の新学術のなかで若手主体の研究会のようなものならある。また若手の理論家の間での集まりもあるらしい。該当するのであれば、準結晶関連では知る限りこの2件がある。

8. 学会の国際化について（延兼）

最初に前回の提案について延兼先生から経緯の説明：

学会発表英語化に関する理事会提案について(前回)

留学生や外国人参加者への配慮のための英語化に協力することには賛同は得られたものの、各領域からは以下のような意見が上がり、本会の結論としては、理事会提案の文章では領域委員会の賛成は得られず、秋以降も継続審議ということとなった。

これに対し、各領域からは

- ・協力レベルということであれば反対ではないが、領域ごとに事情が異なるので、ある程度は領域の裁量に任せてほしい。
- ・英語化の目的が「留学生や外国人研究者への配慮」であることは理解できるが、「学生への教育」は理解できない。
- ・「推奨する」という文言は、実質強要しているのと同じなので表現を変更してほしい。英語化を推し進めていくという趣旨の文章の場合は賛同できない。
- ・領域内で賛成の意見は少なくないものの、反対する方は強い意見を持っている。

→（理事会）英語化を強要するようなことは行わないので、引き続き、できることからご協力頂きたい。

これを踏まえ、あらためて理事会より、学会の国際化（以下3点）について、意見をあつめたいとのこと：

- ・招待講演者が日本語を解さない場合、セッション全体の英語化
- ・オンライン学会ではなるべく国際シンポジウムを企画
- ・スライドを英語で作製することの「推奨」

北野先生から補足説明：

領域7のシンポジウムで、ヨーロッパ&アメリカの研究者もシンポジウム講演に含めるといふ試みが行われているという事例紹介。英語発表の招待講演者やシンポジウム講演者が、その他の日本語の講演を解することができないのはよろしくないのでは、セッション全体を英語化してはどうか、という話。言っていることは筋として真っ当なことなので強い反対はできないのではないかと。

以下あげられた意見：

- ✓ 北野：学生の参加において問題（壁）があるかもしれない。
- ✓ 前田京剛：学生発表もあるので、どうしても英語化するならシンポジウムに限定するのがよいのでは。一般講演で日本語発表をNGとするのはよくないのでは。国際化とはいえ、日本語でも発表があやしい学生がいるのに…

9. 一般講演発表件数の推移（領域全体、分野別）概要集提出率（延兼）

一般講演発表数の推移（領域全体、分野別）概要集提出率が報告された。

10. 国際会議などのお知らせ（延兼）

- ・ ICQ15のお知らせ 田村 隆治（東理大先進理工）（代理）廣戸 孝信（物材機構）
- ・ MRM2023のお知らせ （代理）北野先生
- ・ ISS2023のお知らせ （代理）北野先生

11.

今回で運営委員を退任される延兼先生、廣戸先生からご挨拶。

領域代表の北野先生からも退任のご挨拶。

○学会の現地・オンライン開催に関する意見調査に関して IM 後に送られた意見：

IM 後に NIMS 吉澤先生から北野先生に送られてきたメールより（原文ママ）：

基本的には、前田先生がおっしゃっていた、「参加費・予稿集代を分けて…とかケチくさいことやらずに、参加費を値上げしてもいいから大会ウェブサイトもオンライン配信も他の学会に見劣りしないものにしてほしい」（意識）というご意見に賛成で、1 票追加していただければ幸いです。

現地参加とオンライン参加で参加費を区別すべきという意見もありましたが、個人的には賛成しません。

ハイブリッド配信によって追加の設備が必要になるわけですが、前回の東工大の大会では、現地参加していてもオンラインで他の部屋の講演を聴いたりといったことができ便利でしたので、ハイブリッド配信のメリットがオンライン参加の人だけにあるわけでは無いと考えるからです。

一方、学生賞やオンライン配信の仕事によって数年前と比べて運営委員の仕事が増えています。

大会期間中は領域の業務に縛られており、好きな講演を聴きに行くことすら制限されているにもかかわらず他の参加者と同額の参加費を支払っているのは気の毒に思います。

値上げの議論と合わせて、運営委員の参加費免除の可能性も検討していただけたらと思います。
